令和７年度

滋賀の医療福祉に関する県民意識調査

概要版

令和８年（２０２６年）３月

滋　賀　県

令和7年度 滋賀の医療福祉に関する県民意識調査結果
～ 概 要 版 ～

滋賀県では、「滋賀県基本構想」に「すべての人に居場所と出番があり、最期まで充実した人生を送れる社会の実現」を重点政策の一つとして掲げ、様々な取組を進めています。この度、今後の医療福祉行政推進の参考にさせていただくため、県民の皆さまに医療福祉や在宅看取り等に関する意識や意向についてアンケート調査への協力をお願いしました。ここでは、その結果概要をお示しします。

調査対象：満 18 歳以上の男女 3,000 人　　調査期間：令和７年８月 29 日～９月 22 日
有効回収数：1,452 人（有効回収率 48.4%）　　調査方法：郵送調査・インターネット調査

滋賀県　健康医療福祉部　医療福祉推進課　　TEL　077-528-3529　　FAX　077-528-4851

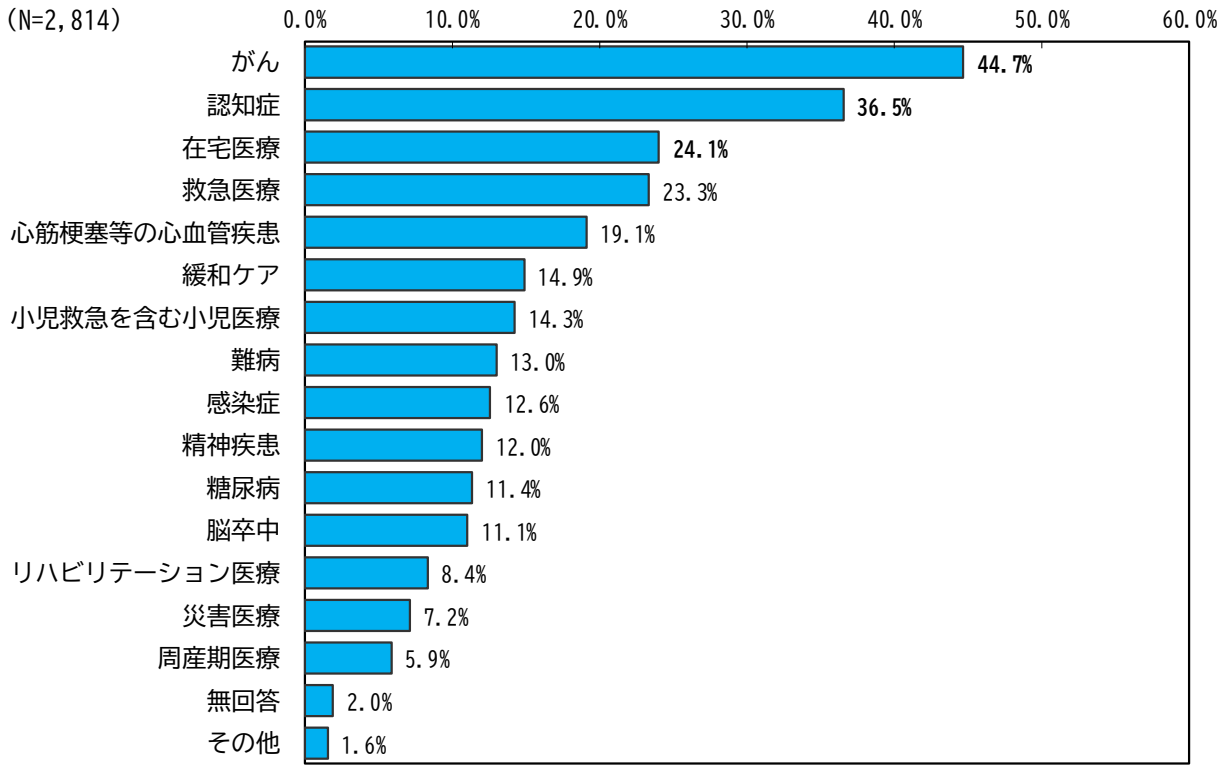
＊各地域の抽出率の差を調整するため、回収数にウェイトを加重した規正標本数を基数として集計しています。
＊Nは集計対象者数を示し、各選択肢の回答比率は「N」を母数として算出したものです。
＊百分率(%)は、小数第 2 位を四捨五入（第 1 位まで表示）しているため、合計が 100.0%に一致しない場合があります。
＊過去の調査結果と比較している設問では、調査年度ごとに選択肢に差異がある場合があります。また、長文の選択肢は図中では省略して表示しています。回答が極端に少ない項目は百分率の表示を省略しています。

1．滋賀県の医療について

（1）今後充実して欲しい医療分野

❖ 充実してほしいのは「がん医療」「認知症医療」「在宅医療」等

今後充実して欲しい医療分野は、「がん」で 44.7%、「認知症」で 36.5%、次いで、「在宅医療」で 24.1%となっています。



３つ以内で複数回答

2．介護に関することについて

（1）将来介護が必要になった時に介護を受けたい場所

❖ 将来介護を受けたい場所は「自宅」「見守りや介護サービスが受けられる高齢者住宅」「特別養護老人ホーム」等

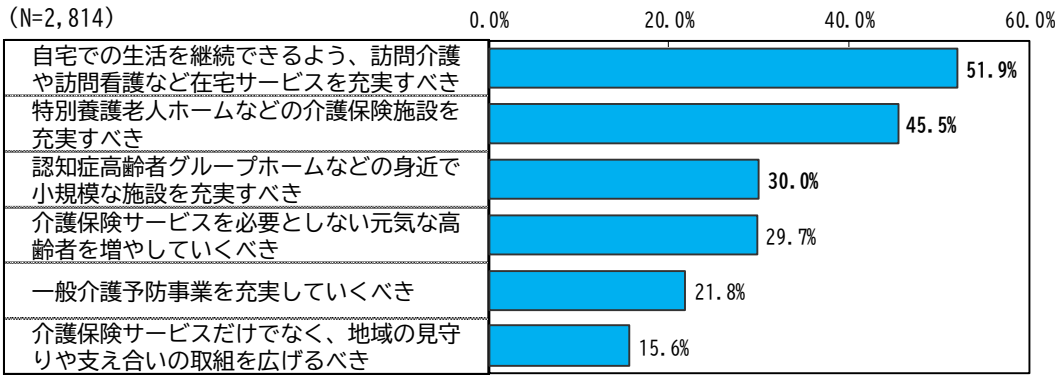
将来介護が必要になった時に介護を受けたい場所は、「自宅」で 29.7%、次いで、「見守りや介護サービスが受けられる高齢者住宅」で 19.4%、「特別養護老人ホームなどの施設」で 13.8%となっています。また、『自宅等』『居住系サービス』『医療機関』に区分して過去の調査と比較すると、概ね同じ傾向となっています。

将来介護を受けたい場所	1 自宅で介護してほしい（訪問介護など在宅の介護サービスを利用）	2 子どもの家で介護してほしい（訪問介護など在宅の介護サービスを利用）	3 兄弟姉妹など親族の家で介護してほしい（訪問介護など在宅の介護サービスを利用）	4 見守りや介護サービスが受けられる高齢者住宅（サービス付き高齢者向け住宅）を利用したい	5 有料老人ホームなどを利用したい	6 認知症高齢者グループホームなどの身近で小規模な施設に入所したい	7 特別養護老人ホームなどの施設に入所したい	8 病院などの医療機関に入院したい	その他	わからない	無回答	(1～3) 自宅等	(4～7) 居住系サービス	(8) 医療機関
令和７年度調査(N=2,814)	**29.7**	0.3	0.0	**19.4**	12.2	3.9	**13.8**	5.5	1.1	12.9	1.3	30.0	49.2	5.5
令和４年度調査(N=2,992)	26.3	0.2	0.1	19.9	8.1	4.9	15.8	7.5	2.1	13.8	1.3	26.6	48.7	7.5
令和元年度調査(N=3,015)	29.1	0.5	0.2	19.2	9.3	4.0	16.5	6.5	2.1	12.0	0.6	29.8	49.0	6.5
平成28年度調査(N=3,359)	29.1	1.1	0.2	11.6	6.6	－	20.3	9.8	1.3	10.0	9.8	30.4	38.5	9.8

（2）介護保険サービスで力を入れるべきこと

❖ 力を入れるべき介護保険サービスは「訪問介護・訪問看護などの在宅サービスの充実」や「介護保険施設の充実」等

介護保険サービスで力を入れるべきことは、「自宅での生活を継続できるよう、訪問介護や訪問看護など在宅サービスを充実すべき」で 51.9%、次いで、「特別養護老人ホームなどの介護保険施設を充実すべき」で 45.5%、「認知症高齢者グループホームなどの身近で小規模な施設を充実すべき」で 30.0%となっています。



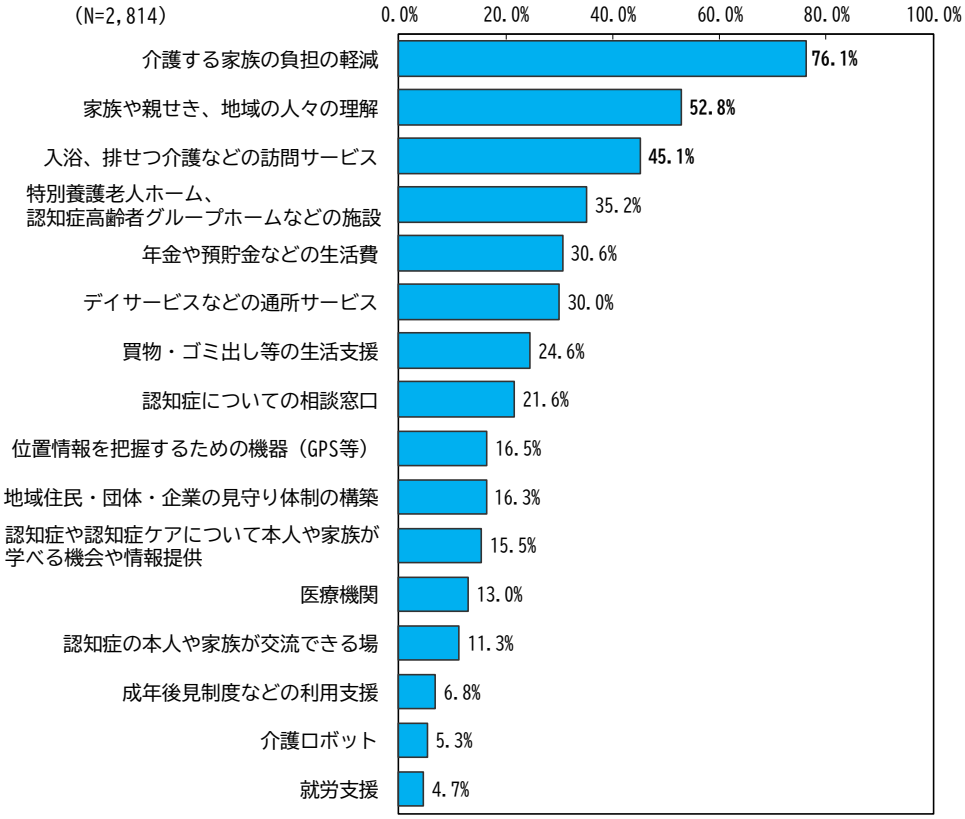
※その他：2.2%、わからない：6.4%、無回答：1.0%は、省略。　　３つ以内で複数回答

３．認知症や在宅における認知症ケアについて

（１）住み慣れた地域で暮らし続けるために必要なこと

❖ 住み慣れた地域で暮らし続けるために必要なのは「介護する家族の負担の軽減」や「家族や親せき、地域の人々の理解」等

認知症の人が住み慣れた地域で暮らし続けるために必要なことは、「介護する家族の負担の軽減」で 76.1%、次いで、「家族や親せき、地域の人々の理解」で 52.8%、「入浴、排せつ介護などの訪問サービス」で 45.1%となっています。

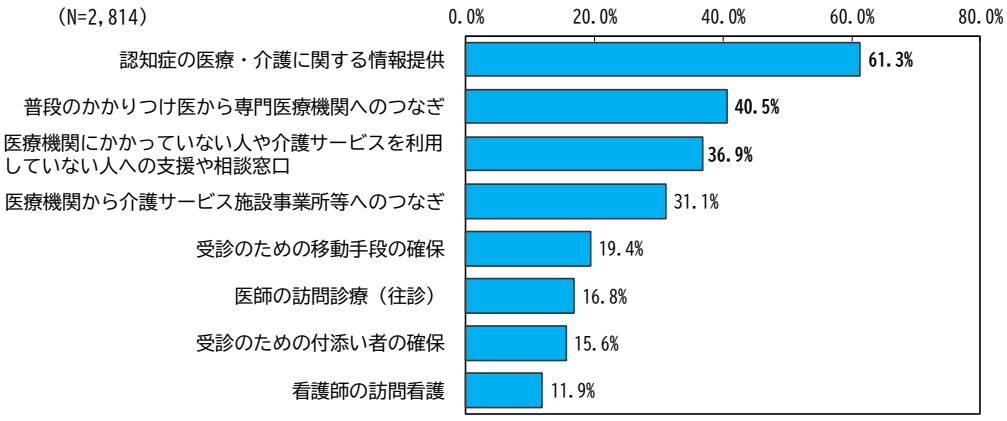


※その他：0.3%、わからない：1.7%、無回答：1.3%は、省略。　　5つ以内で複数回答

（２）認知症で医療・介護を利用する場合に必要なこと

❖ 必要なことは「認知症の医療・介護に関する情報提供」や「普段のかかりつけ医から専門医療機関へのつなぎ」等

認知症で医療・介護を利用する場合に必要なことは、「認知症の医療・介護に関する情報提供」で 61.3%、次いで、「普段のかかりつけ医から専門医療機関へのつなぎ」で 40.5%、「医療機関にかかっていない人や介護サービスを利用していない人への支援や相談窓口」36.9%となっています。



※その他：0.7%、わからない：5.1%、無回答：1.3%は、省略。　　３つ以内で複数回答

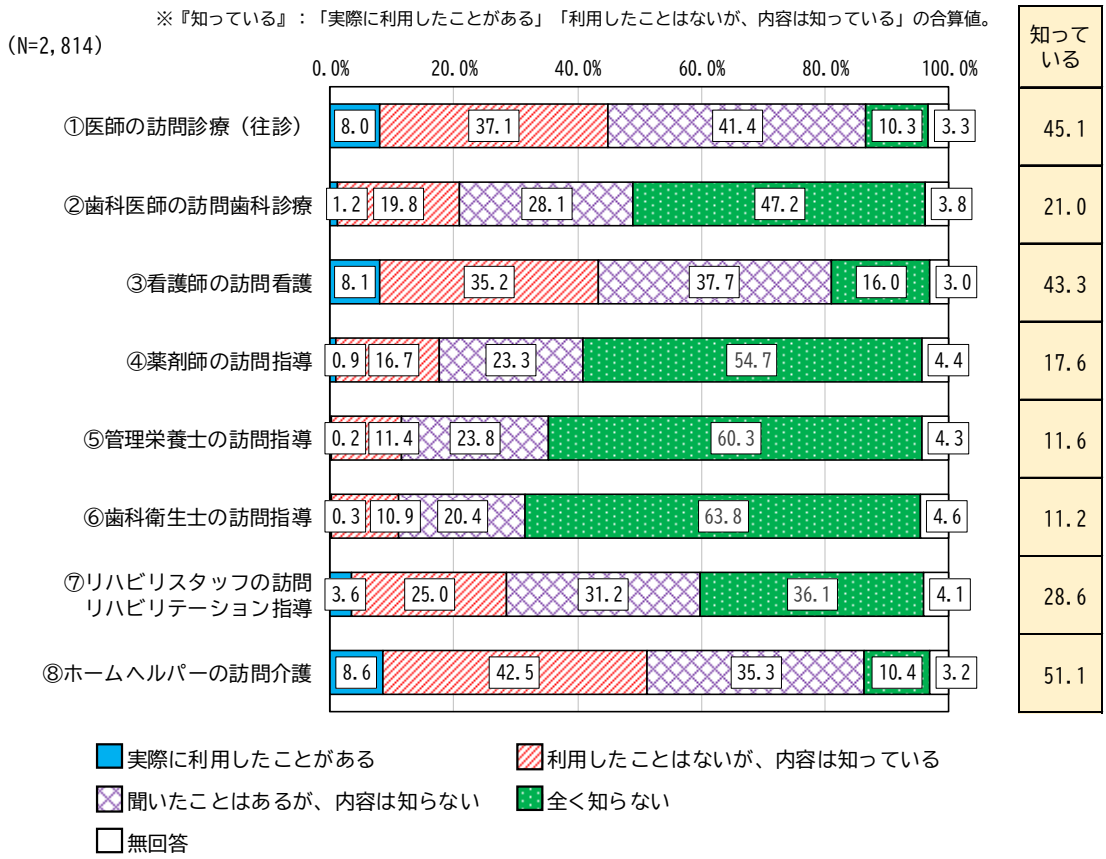
4．在宅医療・人生の最終段階における医療について

（1）在宅医療の各サービスの認知度

❖ 訪問診療・訪問看護・訪問介護を除く在宅医療サービスは、全く知らない人が多い

在宅医療の各サービスについて、「①訪問診療（往診）」、「③訪問看護」、「⑧ホームヘルパーの訪問介護」は、比較的よく知られている。一方で、「④薬剤師・⑤管理栄養士・⑥歯科衛生士の訪問指導」は、認知度が低くなっています。

※『知っている』：「実際に利用したことがある」「利用したことはないが、内容は知っている」の合算値。



（2）ターミナルケアについての考え方

❖ 死期が迫っているときのターミナルケアでは、自宅療養を望む人が多い

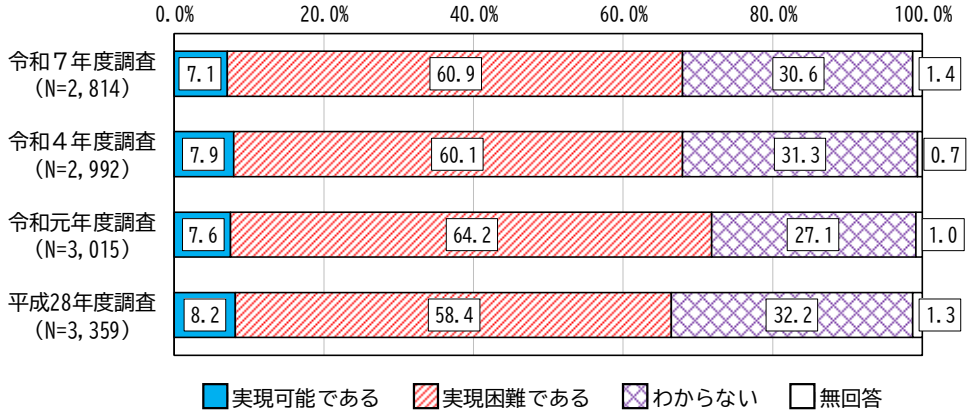
仮に、痛みを伴い、しかも治る見込みがなく６か月以内に死期が迫っている状態だとした場合にどうしたいかについては、「自宅で療養して、必要になれば緩和ケア病棟に入院したい」が 32.5%で最も多くなっています。

ターミナルケア	1 自宅で最期まで療養したい	2 自宅で療養して、必要になれば医療機関に入院したい	3 自宅で療養して、必要になれば緩和ケア病棟に入院したい	4 なるべく今まで通っていた医療機関に入院したい	5 なるべく早く緩和ケア病棟に入院したい	その他	わからない	無回答	(1～3) 自宅等
令和７年度調査(N=2,814)	10.4	24.7	32.5	6.4	12.8	1.4	11.0	0.9	67.6
令和４年度調査(N=2,992)	10.0	23.2	36.9	6.7	12.6	0.8	9.0	0.8	70.1
令和元年度調査(N=3,015)	14.3	23.8	34.6	5.6	11.2	2.1	7.1	1.2	72.8
平成28年度調査(N=3,359)	11.0	17.4	32.8	9.3	19.1	2.0	6.8	1.5	61.2

（３）自宅で最期まで療養できるか

❖ 自宅で最期まで療養するのは「実現困難」が約６割と多い

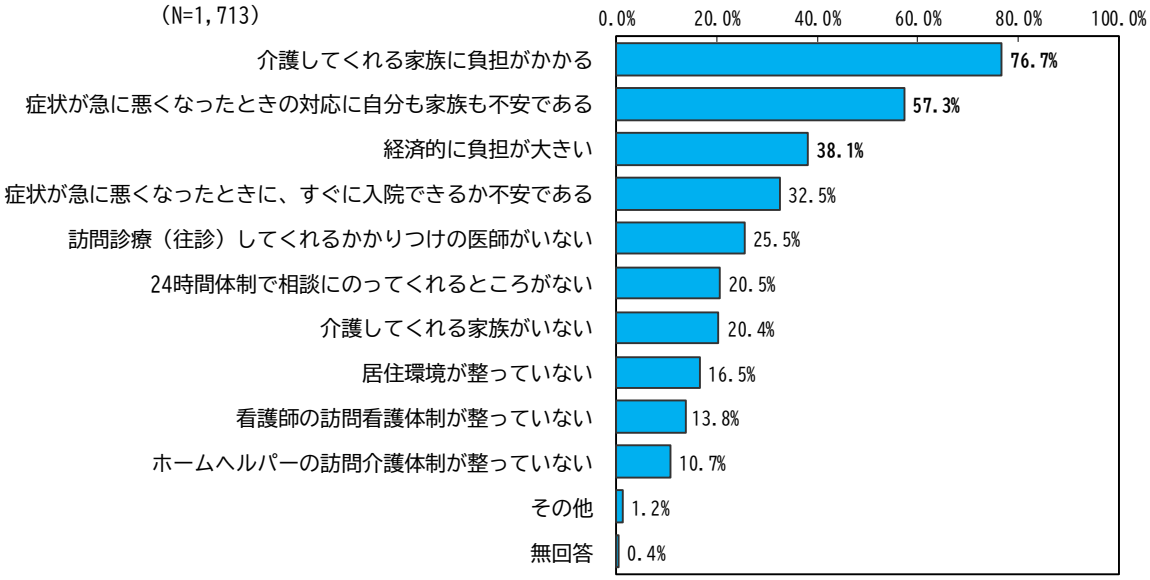
自宅で最期まで療養できるかは、「実現困難である」で 60.9%、「実現可能である」で 7.1%となっています。



（４）自宅療養が実現困難な理由

❖ 自宅療養が実現困難な理由は「介護してくれる家族の負担」「急変時の対応や入院が不安」「経済的に負担大きい」等

自宅で最期まで療養することが「実現困難である」と回答した人に、その理由をたずねたところ、「介護してくれる家族に負担がかかる」が 76.7%で最も多く、次いで、「症状が急に悪くなったときの対応に自分も家族も不安である」で 57.3%、「経済的に負担が大きい」で 38.1%となっています。



（５）人生の最期を迎えたい場所

❖ 人生の最期を迎えたい場所は「自宅」が約４割で最も多い

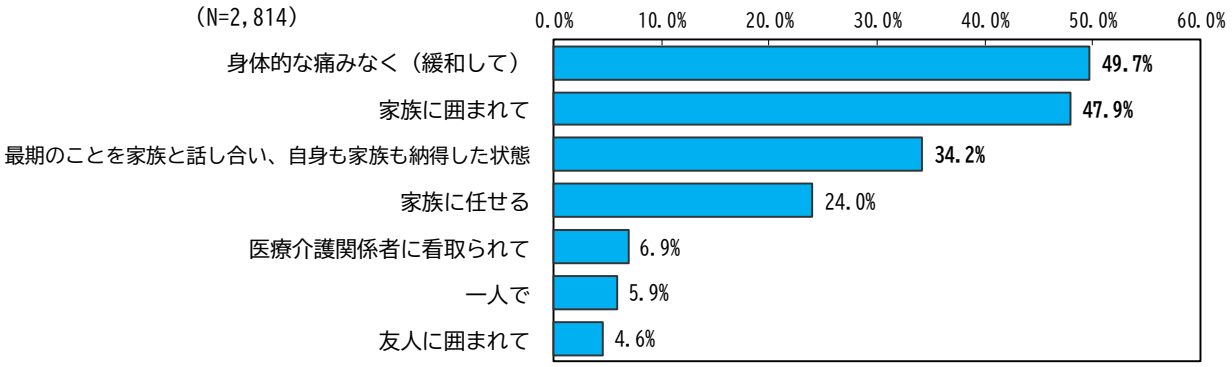
人生の最期を迎えたい場所は、「自宅」で 38.1%、次いで、「病院」で 26.5%となっています。

人生の最期を迎えたい場所	自宅	病院	特別養護老人ホーム	認知症高齢者グループホーム	有料老人ホーム	サービス付き高齢者向け住宅	その他	わからない	無回答
令和７年度調査(N=2,814)	38.1	26.5	2.1	0.5	0.8	1.8	1.5	27.8	0.9
令和４年度調査(N=2,992)	40.8	23.8	2.5	0.4	0.9	2.2	1.2	27.7	0.5
令和元年度調査(N=3,015)	41.9	22.9	3.3	0.1	1.0	1.9	2.4	25.4	1.3
平成28年度調査(N=3,359)	41.9	22.5	5.1	－	0.6	2.2	0.9	20.9	4.1

（６）人生の最期を迎えたい状況

❖ 人生の最期を迎えたい状況は「身体的な痛みなく（緩和して）」や「家族に囲まれて」が約５割

人生の最期を迎えたい状況をみると、「身体的な痛みなく（緩和して）」で 49.7%、次いで、「家族に囲まれて」が 47.9%となっています。

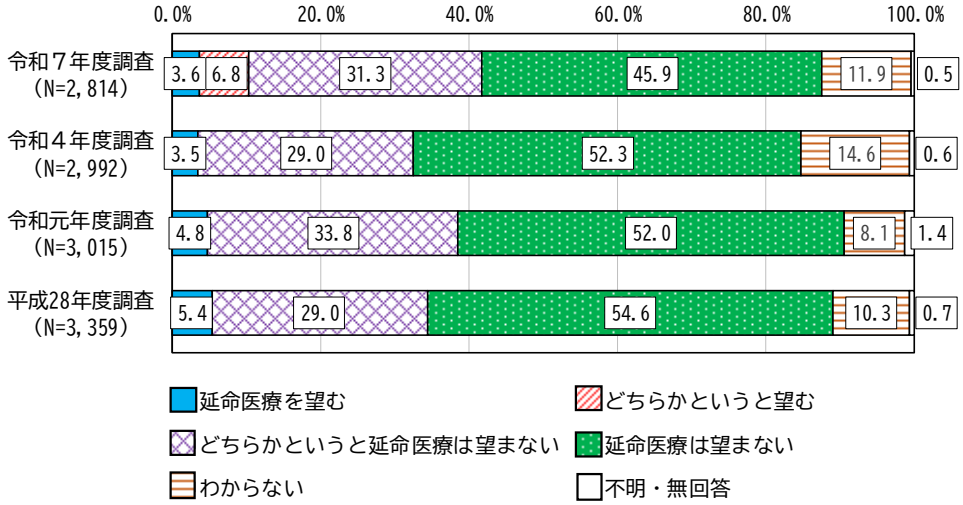


※その他：0.3%、わからない：10.1%、無回答：1.1%は、省略。　複数回答

（７）延命医療の希望

❖ 延命医療は『望まない』が約８割、『望む』が約１割

延命医療の希望は、「延命医療は望まない」で 45.9%、「どちらかというと延命医療は望まない」で 31.3%、合算した延命医療は『望まない』は 77.2%となっています。



望む	望まない
10.3	77.2
3.5	81.3
4.8	85.8
5.4	83.6

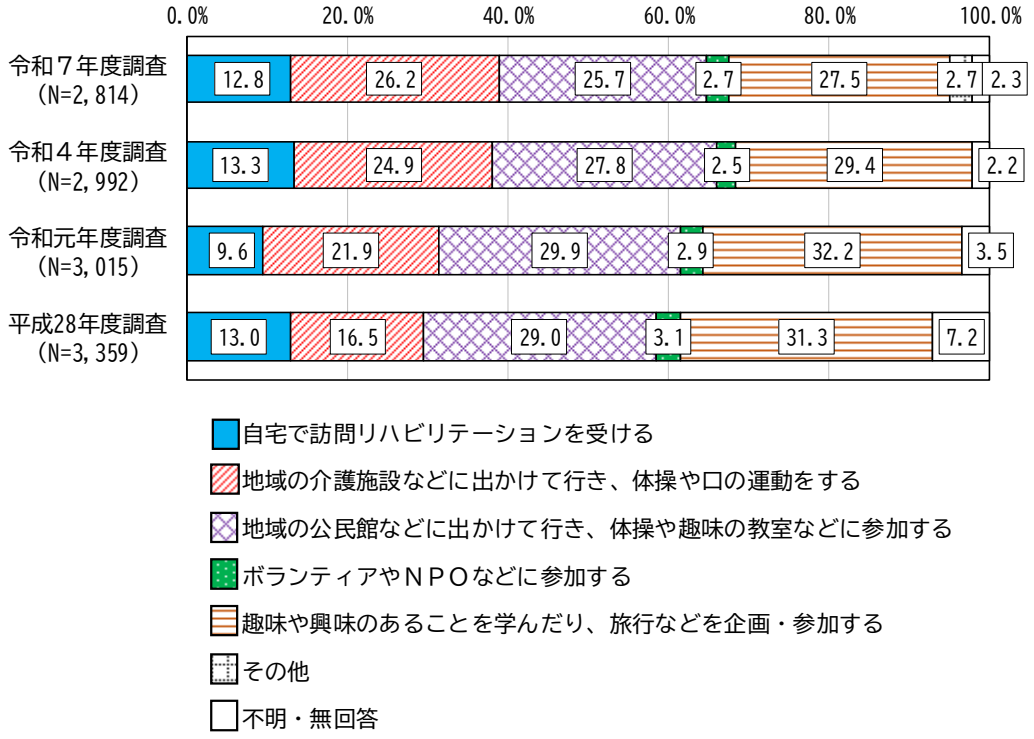
※令和７年度調査では、調査項目「どちらかというと望む」を新設。

5．介護予防に関することについて

（１）望んでいる介護予防のイメージ

❖ 望んでいる介護予防のイメージは、趣味や旅行、地域施設での体操や運動等が多い

望んでいる介護予防のイメージは、「趣味や興味のあることを学んだり、旅行などを企画・参加する」で 27.5%、次いで、「地域の介護施設などに出かけて行き、体操や口の運動をする」で 26.2%、「地域の公民館などに出かけて行き、体操や趣味の教室などに参加する」で 25.7%となっています。



（２）地域とのつながりの状況

❖ 地域との『つながりあり』は約６割で年々減少傾向

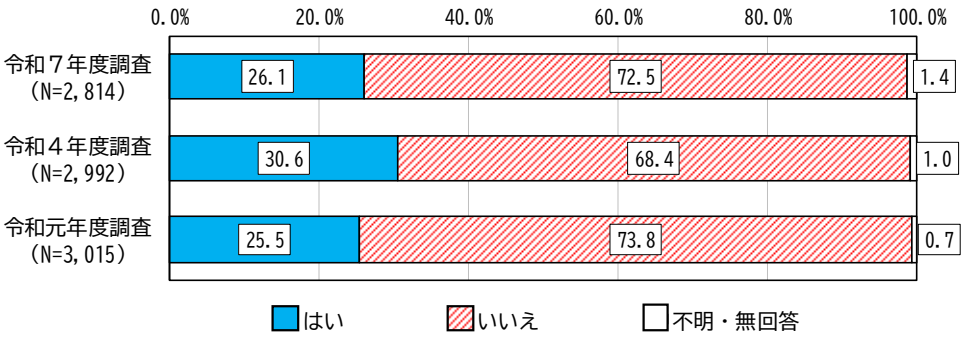
何らかの形で地域との『つながりがあり』と回答した人は 64.4%で、過去の調査と比較しても減少傾向となっています。一方で、「地域ととくにつながりはない」も 33.6%と多くなっています。また、つながりの内容は、性別、年齢、家族構成によって差がみられます。

		1 地域に気軽に行ける場所がある	2 地域の行事に参加している	3 自治会の役員等をしている	4 地域に友人がいる	5 地域で困ったときに助けてくれる人がいる	地域ととくにつながりはない	無回答	(1～5) つながりあり
全体(N=2,814)		19.0	33.1	13.8	35.9	20.8	33.6	2.0	64.4
性別	男性(N=1,214)	19.8	36.5	20.4	28.8	17.6	35.4	1.3	63.3
	女性(N=1,510)	18.3	30.3	8.9	41.7	23.8	32.2	2.3	65.5
年齢別	18～29歳(N=445)	20.0	20.0	1.8	44.9	22.2	32.6	0.9	66.5
	30～39歳(N=348)	15.8	28.4	8.0	23.9	15.2	44.8	1.1	54.0
	40～49歳(N=320)	15.0	30.0	14.4	34.4	18.4	37.8	1.3	60.9
	50～59歳(N=435)	13.6	34.9	21.4	34.5	20.0	33.8	0.0	66.2
	60～69歳(N=497)	13.7	36.8	20.9	33.8	19.3	34.8	2.0	63.2
	70歳以上(N=756)	28.3	41.3	14.6	39.2	25.3	26.2	4.4	69.4
家族構成別	単身世帯(N=220)	20.0	29.5	10.5	28.2	24.1	40.9	0.5	58.6
	一世代世帯(N=820)	20.5	35.7	17.7	32.7	19.4	32.8	2.4	64.8
	二世代世帯(N=1,387)	17.5	31.6	12.1	38.1	21.3	33.5	1.4	65.0
	三世代世帯(N=285)	23.2	38.2	17.2	44.6	22.1	26.0	2.1	71.9
	その他の世帯(N=84)	14.3	28.6	4.8	21.4	15.5	48.8	9.5	41.7

（３）尿もれの状況

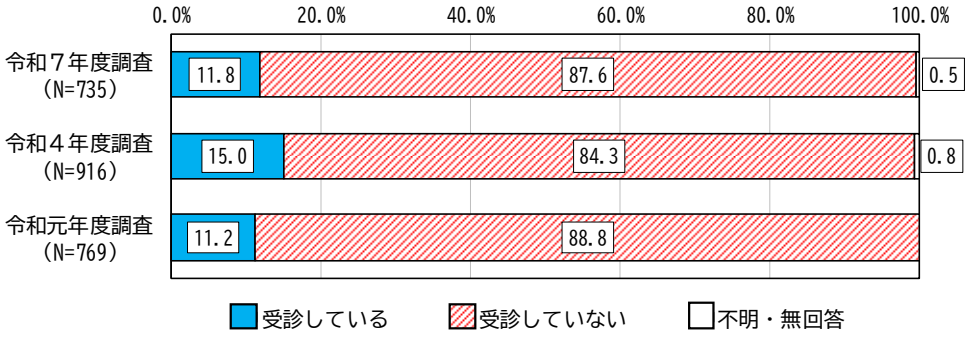
❖ 尿もれは約３割が経験している

尿もれの状況について過去１年間で経験があったかをみると、「はい」が 26.1%、「いいえ」が 72.5%となっています。

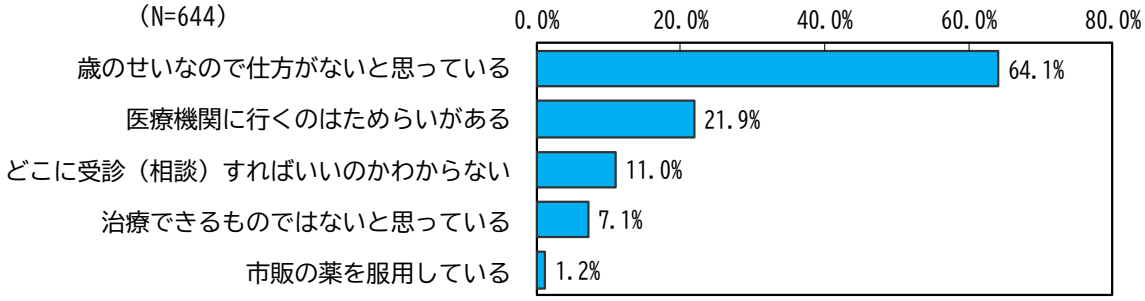


❖ 尿もれ経験している人の受診率は約１割程度

尿もれの状況について過去１年間で経験ありと回答した人に、医療機関に受診しているかをたずねたところ、「受診している」で 11.8%、「受診していない」で 87.6%となっています。

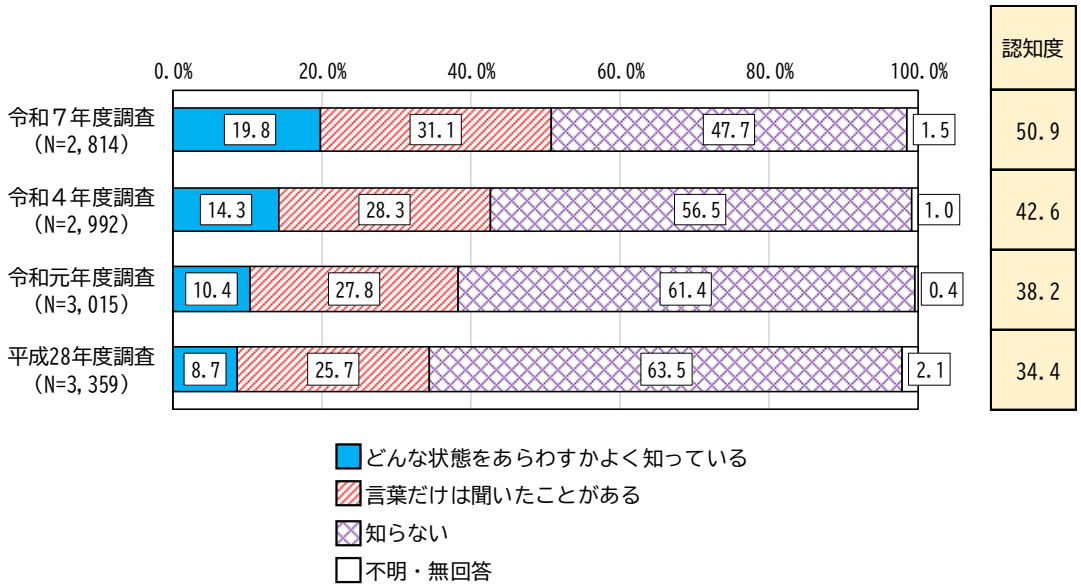


受診していない理由としては「歳のせいなので仕方がないと思っている」が 64.1%で最も多くなっています。



※その他：22.2%、無回答：2.8%は、省略。　　複数回答

6．健康づくりについて

❖ フレイルの認知度は約５割で年々増加傾向

加齢に伴って筋力や心身の活力が低下した状態をあらわす「フレイル」という言葉の認知度は、「どんな状態をあらわすかよく知っている」で 19.8%、「言葉だけは聞いたことがある」で 31.1%合算した『認知度』は 50.9%となっています。